

笛吹市探訪

笛吹市の歴史文化を伝えていくために…

笛吹市周辺には、武田信玄の父、武田信虎が甲府の躑躅ヶ崎（つつじがさき）に館を移す以前の武田家ゆかりの史跡が数多く残っています。また、市内の寺社には、信玄を中心とする武田三代ゆかりの品々が大切に

に伝えられています。しかし、笛吹市内の武田三代に関する文化財は古文書などが多く、所有する寺社を訪ねても、保存庫などに保管されていてすぐには見る事ができないものもあります。そのため、観光客の興味は、長野県の川中島古戦場跡や甲州市の恵林寺、甲府市の躑躅ヶ崎館跡（つつじがさきのやかたあと）（現武田神社）などに向けられ、笛吹市までなかなか訪れてもらえないのが現状です。

今回の笛吹市探訪では、そのような現状の中で、笛吹市に残る武田氏ゆかりの寺社や史跡、文化財を、市民や観光客に知ってもらおうと取り組んでいる団体について紹介したいと思います。

笛吹市では、多くの観光客に市内を訪れていただくために、市内の史跡、遺跡を案内するガイドを

養成しています。その1期生と2期生が「ボランティアガイド笛吹」を組織し、市内歴史ガイドとして活躍しています。

この「ボランティアガイド笛吹」では、JRなどの観光業者が主催する史跡めぐりや学習グループの研修会、市の文化財課が主催する「古道めぐり」などのガイド活動を行っています。

この「古道めぐり」は、参加者が市内にある古道や周辺の神社、お寺、道端にたずむ石造物などを訪ね歩き、ガイドの皆さんの説明を聞きながら、「ふるさと笛吹市」を見つめ直すことを目的に開かれているものです。

また、市内の旅館に宿泊する旅行者などからの要望にも対応できるように、旅館組合とも連絡体制を整えています。

ガイドによる案内は、「甲州弁での説明はとても温かみがあります。歴史文化を十分理解することができました」と、観光客にも好評です。

ガイドの皆さんは「武田家ゆかりの史跡をはじめ、多くの方に市内の歴史文化を知っていただきたい」と、熱心に活動に取り組んでおり、また、今後は学校の課外授業などにも活動の場を広げていきたいと話しています。

笛吹市探訪では、これまで市内の



古道めぐり（御坂町内での説明）

寺社などを中心とした武田氏との関わりを紹介してきました。武田氏が市内に残した痕跡（こんせき）がたくさんあることを再発見した方も多いのではないかと思います。

私たちは、これらの貴重な文化遺産を後世に守り伝えていくためにも、その大切さの理由を分かりやすく説明していく努力をしなければなりません。

いかに歴史文化を「伝えていく」か、そのために市民グループと行政が連携してつくってきたひとつの形が、「ボランティアガイド笛吹」なのです。



古道めぐり（石和町遠妙寺境内にて）